

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

winter 2010
Jan.—Mar.

71



特集

山口未公開日本映画特集

「鈴木×鈴木」

すずきのりぶみ
鈴木則文

日本の アクション 映画を築いた 2人の鈴木。



すずきせいじゅん
鈴木清順



特集

03 日本の
アクション映画を
築いた2人の鈴木。

山口未公開日本映画特集

「鈴木×鈴木」

ピックアップイベント

08 楽しい一年が
ここから始まる。

山口情報芸術センター

三上晴子新作インスタレーション展

「Desire of Codes—欲望のコード」

情報社会と知覚との関係を鋭く描く、三上晴子新作展

検索ワークショップ「Search'n Search」

カードゲームで遊びながら、メディア社会の仕組みに迫る！

中原中也記念館

企画展Ⅲ「収蔵資料展」

収蔵資料にみる中也の新たな世界

第7回常設テーマ展示「『山羊の歌』まで」

詩集『山羊の歌』ができるまでをたどる

山口市市民会館

「第14回ニューイヤーバンドフェスティバル2010」

新春を彩るプラスの祭典

12 any 通信

◎アーティストボイス 佐藤俊介（ヴァイオリニスト）

◎お先に試写しました 「アンナと過ごした4日間」

◎いただきます シフォンケーキセット（「ラ・レーヌ・デ・カトルセゾン」）

◎GOOD GOODS 展覧会ブックレット「gravicells—重力と抵抗」

◎My Favorite 林光院寿江（山口市市民会館）

14 イベントカレンダー 1～3月

INFORMATION



鈴木清順監督「海峡、血に染めて」©日活



鈴木則文監督「まむしの兄弟 恐喝三億円」©東映

山口未公開日本映画特集「鈴木×鈴木」

日本の アクション 映画を築いた 2人の鈴木。

山口情報芸術センターで2006年から始まったシリーズ
『山口未公開日本映画特集』。
ここでは、近年山口県下で上映されていない作品を中心に、
作家やテーマ別に作品を選定し特集上映を行っています。
今回は1950～60年代の日活アクション映画を代表する鈴木清順と、
1960～70年代の東映アクション映画を代表する鈴木則文を取り上げ、
時代を駆け抜けた傑作群の中から計30本を一挙上映。
日本映画史の中で一時代を築いた2人の鈴木について、
本シリーズの監修者であり、山口大学で映像論・映画史を研究されている
堀家敬嗣准教授にお話いただきました。

鈴木則文監督
鈴木清順監督



写真左から：「東京流れ者」「探偵事務所 23 くたばれ悪党ども」「関東無宿」 ©日活

鈴木清順監督特集

1月14日(木)～17日(日)

「悪魔の街」(1956年／79分／モノクロ)
出演：河津清三郎、菅井一郎、由美あづさ

「青い乳房」(1958年／90分／モノクロ)
出演：小林 旭、稲垣美穂子、渡辺美佐子

「海峡、血に染めて」(1961年／84分／カラー)
出演：和田浩治、清水まゆみ、葉山良二

「野獣の青春」(1963年／92分／カラー)
出演：穴戸 錠、渡辺美佐子、川地民夫

「東京流れ者」(1966年／83分／カラー)
出演：渡 哲也、松原智恵子、二谷英明

※作品によって上映日時が異なります。詳細はチラシまたはウェブサイト(http://suzuki_suzuki.ycam.jp/)をご覧ください。

1月21日(木)～24日(日)

「8時間の恐怖」(1957年／78分／モノクロ)
出演：金子信雄、利根はる恵、二谷英明

「素ッ裸の年令」(1959年／54分／モノクロ)
出演：赤木圭一郎、堀 恭子、左 ト全

「くたばれ愚連隊」(1960年／80分／カラー)
出演：和田浩治、清水まゆみ、小沢栄太郎

「探偵事務所 23 くたばれ悪党ども」
(1963年／88分／カラー)
出演：穴戸 錠、笹森礼子、川地民夫

「春婦傳」(1965年／96分／モノクロ)
出演：川地民夫、野川由美子、玉川伊佐男

1月28日(木)～31日(日)

「暗黒街の美女」(1958年／87分／モノクロ)
出演：水島道太郎、白木マリ、二谷英明

「密航0ライン」(1960年／83分／モノクロ)
出演：長門裕之、小高雄二、清水まゆみ

「刺青一代」(1965年／87分／カラー)
出演：高橋英樹、和泉雅子、小高雄二

「関東無宿」(1963年／93分／カラー)
出演：小林 旭、松原智恵子、平田大三郎

「殺しの烙印」(1967年／91分／モノクロ)
出演：穴戸 錠、南原宏治、真理アンヌ

日本のアクション映画の一つの流れを把握することができます。

今回の企画について、なぜこの2人の監督を選ばれたのでしょうか？

鈴木清順監督については、前からやろうという話があがっていました。特に彼の日活アクションシリーズと呼ばれる作品は、学生にも「ほら、格好いいでしょ」と説得しやすいところもあり、ぜひ特集上映をしていただきたいと思っていたのですが、なかなか機会がなくて…。でも、昨年の山口未公開日本映画特集のゲストとして青山真治さんが来られ、今回の企画について「大先輩の鈴木則文監督と対談するのも面白いのでは」と提案され、じゃあ鈴木(清順)と鈴木(則文)でいきましょうということに。

この2人の鈴木を並べた時に、軸としてはアクション映画というのがあがってきます。ただしアクション映画といっても、かたや鈴木清順は“日活”、かたや鈴木

則文は“東映”という会社の違いが出てきます。それと、もう一つは清順さんがアクション映画を撮っていたのは基本的には50年代半ばから60年代半ばまで。則文さんは撮り始めるのが、それと若干重なるように始まり70年代半ばまで。もちろんそれ以降も何本か撮られています。基本的には東映というシステムの中でアクション的な映画を撮っていたのが70年代半ばあたりと考えると、大体10年ずつのスパンで日本のアクション映画の一つの流れを把握することができます。

日活の任侠アクションは情に訴えず、からっとしている。特に日活の監督の中でも清順さんはそれが典型的な人だった。

日活と東映、それぞれ映画会社としてはどのような違いがあるのでしょうか？

戦時中に日活は大映という会社に吸収されて一度なくなってしまうんです。戦後、東映が出てきて、日活が戦前に撮っていたような時代劇を撮り始めます。日活が復活したときはもう時代劇はできなくなり、一時低迷するんですが、石原裕次郎の「太陽族」映画があたって、一躍映画界の刷新をしちゃうんです。そうすると新しい日活はそういう方向の映画を作り続け、それがアクション映画につながっていきます。この新生日活のアクション映画では、戦前とは違ううじじした情緒的なものを切り離して、非常にからっとしたものを作り始める。その典型例として“無国籍アクション”というのが出てきます。つまり裏側・奥行をもたない、土地の背景なんて関係なく、どこでもかまわなような空間、時間になる。例えば穴戸錠なんかはいきなりメキシコ人みたいな恰好で登場しますが、なぜそんな恰好しているのか、なぜ日本語を話しているのに周りは西部劇みたいなセットなのか、まったく理由がなく



写真左から：「忍者武芸帖 百地三太夫」「緋牡丹博徒 一宿一飯」「トラック野郎 望郷一番星」 ©東映

鈴木則文監督特集

2月4日(木)～7日(日)

「大阪ど根性物語 どえらい奴」
(1965年／87分／モノクロ)
出演：藤田まこと、曾我廼家明蝶、藤 純子

「聖獣学園」(1974年／91分／カラー)
出演：多岐川裕美、山内えみこ、渡辺やよい

「多羅尾伴内」(1978年／104分／カラー)
出演：小林 旭、八代亜紀、夏樹陽子

「忍者武芸帖 百地三太夫」
(1980年／117分／カラー)
出演：真田広之、蜷川有紀、志穂美悦子

「兄弟仁義 逆縁の盃」
(1968年／90分／カラー)
出演：北島三郎、菅原文太、遠藤辰雄

※作品によって上映日時が異なります。詳細はチラシまたはウェブサイト(http://suzuki_suzuki.ycam.jp/)をご覧ください。

2月11日(木・祝)～14日(日)

「緋牡丹博徒 一宿一飯」
(1968年／95分／カラー)
出演：藤 純子、若山富三郎、水島道太郎

「ドカベン」(1977年／84分／カラー)
出演：橋本三智弘、高品正弘、永島敏行

「トラック野郎 爆走一番星」
(1975年／96分／カラー)
出演：菅原文太、愛川欽也、あべ静江

「吼えろ鉄拳」(1981年／95分／カラー)
出演：真田広之、志穂美悦子、千葉真一

「少林寺拳法」(1975年／87分／カラー)
出演：千葉真一、中島ゆたか、志穂美悦子

てもかまわない。石原裕次郎が怪我をして、赤木圭一郎が死んで以降、穴戸錠と二谷英明が主役に抜擢されてからは、無国籍性が強まっていき、一つの日活アクションの特徴になっていきます。逆に東映は、奥行というか表の向こう側にあるじめっとしたものにとられる。新生日活が現代劇で無国籍アクションを作ってヒットしているということで、それに東映ものつかりとします。ただし、これまでの時代劇の時代設定を若干新しいものにして大体明治の終りから昭和の頭くらいのアクション映画にしようということで任侠ものが出てきます。今度はそういう流れが日活にも影響し、日活も任侠映画を作り始める。例えば今回上映される清順さんの作品の中では、小林旭主演の「関東無宿」や高橋英樹主演の「刺青一代」などがそうです。それらは“東映の任侠映画”に対して“日活の任侠アクション”という言葉方をしますが、どう違うのかと言うと、東映の任侠映画は情に訴えるけれども、やはり日活の任侠アクションは情に訴えず、からっと

している。特に日活の監督の中でも清順さんはそれが典型的な人だった。

2人の監督の違いはどこにあると思いますか？

清順さんは現実世界と映画における世界観との合理性ということにはどんどん無頓着になっていき、様式性・形式性の方により傾いていきます。清順さんは自分の映画のことをよく歌舞伎に例えています。我々が生きている世界をいかに抽象化し、映画の虚構的な現実反映させるのかというときに、歌舞伎における様式のありようを映画の中に取り込んだと言えます。色の使い方もそうだし、セットの作り方もそうだし。その様式化の仕方を歌舞伎だと言っているんだと思います。一方で則文さんや70年代の東映の映画監督は、時代の風潮をかなり敏感に取り入れている。則文さんの作品の中で、我々が生きている現実がどう扱われているかという、たぶん肥大化なんだろうと思います。その典型がトラック野郎シリーズの派手に装飾されたトラック“デコトラ”にあら

われていて、突然ああいうものをぽんと置いちゃう。デコトラの過剰な装飾性というのは我々の現実世界の中には必要のないものです。必要ないんだけどああいうものが存在してしまうし、面白いからという理由であっさり受け入れちゃう。そういう世界が特に則文さんの世界なんじゃないかという気がします。

東映がどのようにして生き残ったのかということと、則文さんがどういう作品を撮ったかというところはかなり大きな関わりがあります。

映画には作られた当時の時代性が反映されていると思いますが、今回上映される作品ではどのようにあらわれているのでしょうか？

当時の任侠映画については、安保闘争・学園紛争と非常に大きな関わりをもっていることは、どこでも言われていることで、60年代からはアメリカのベトナム戦争問題もあるし、学生運動が激しくなって東大が入試をやめたりという時代ですから、い



鈴木清順 Suzuki Seijun

1923年生まれ。本名は、鈴木清太郎。1948年、松竹大船撮影所に助監督として入所するが、1954年に日活に移籍。1956年「勝利をわが手に 港の乾杯」で映画監督デビュー。2年後の1958年鈴木清順に改名する。多くの傑作を手がけるものの「殺しの烙印」(1967)が当時の日活上層部に理解されず解雇となる。この事件はやがて“鈴木清順問題共闘会議”による抗議活動へと発展。以後、映画では10年のブランクを経て「悲愁物語」(1977、松竹)で復帰。その後も「ツィゴイネルワイゼン」(1980、シネマ・プラセット)などの傑作を生み出す。映画以外にもテレビやビデオ、CMなどを監督として手がけ、その一方で俳優としても多く出演する。

トークゲストが語る「鈴木×鈴木」の魅力

甘美なる異端

柳下毅一郎 (映画評論家・特殊翻訳家・殺人研究家)



鈴木×鈴木、この甘美なる異端! 清順と則文とは日本の娯楽映画黄金時代に咲いた甘い香りの危険な花である。その香りに誘惑されて近づけば、そこには人の理性を狂わす不思議な映像世界が待っている。誰も無視することができないほど強烈な映像である。だから鈴木清順は日活アクションの全盛期にあって「東京流れ者」や「けんかえれじい」のような傑作を世に送りだしながらも社長からほとんど理不尽な憎しみを向けられて解雇されてしまうのだし、鈴木則文は「緋牡丹博徒」や「トラック野郎」のような東映娯楽映画の代表ともいえるシリーズを世に送り出した誰はばかることなき大衆監督でありつつもきわめて前衛的な映画表現を追究しつづける。2人の映画はきわめて知的であり、同時に馬鹿馬鹿しいほどあっけらかんと娯楽でありつづける。「知的遊戯」というのはたやすい。だがそれを生み出せるのは真の知性の持ち主だけなのである。そんな2人がたまたま映画という大衆娯楽を選び、たまたまその全盛期に異能を発揮したことを今こそ祝すべきである。日本でもっともありふれた名字をふたつ重ねるだけで、誰も見たことがないような異端の映像が生まれる。それこそが映画のマジックなのだ。

トークゲストが語る「鈴木×鈴木」の魅力

スズキ×スズキ

青山真治 (映画監督・小説家)

スズキとスズキ。この、わが国においてきわめて数の多い名字の下に、ふたつの名前が配置されることで、かつて日本の娯楽映画はその類稀な個性の頂点を持つに至った。ふたつの名前、それが「清順」と「則文」である。もしもこのふたりの天才が存在しなければ、などという仮説は不可能だ。それでは日本映画が日本映画でなくなってしまう。無駄なことだが、仮に映画を国籍で分類するとして、少なくとも80年代までは他の国籍を差し置いて日本がアメリカと肩を並べる双璧の映画大国であったことはまちがいない。その水準を押し上げ、かつ独特のものとした最後の名前が「清順」と「則文」だった。そして、もしもいまの日本映画に物足りなさを感じるとしたら、それもまたこのふたつの名前が及ぼす影響の下に我々がいることの証明に他ならない。逆に言えば、このふたつの名前を考えることには、いまなお日本映画の未来がガチで賭けられているのだ。日本最後の娯楽映画作家、ふたりのスズキを決して見逃してはならない。



鈴木則文 Suzuki Noribumi

1933年生まれ。1956年、東京都撮影所に助監督として入所。1963年「続・てなもんや三度笠」で脚本家デビュー。1965年「大阪ど根性物語 どえらい奴」で監督デビュー。仁侠映画やアクション映画を手がける一方、「温泉みすず芸者」(1971)などのポルノ路線の作品や「華麗なる追跡」(1975)などの女性アクションものも手がける。また、藤純子主演の「緋牡丹博徒シリーズ」(1968～72)や、菅原文太主演の“トラック野郎シリーズ” (1975～79)など、東映の一時代を築く代表的な人気シリーズを生み出す。1984年、東映を去る。フリーとなった後も「堀の中のプレイ・ボール」(1987、松竹)など娯楽に徹底した作品を作り続け、またテレビの脚本も多く手がける。

SUZUKI X SUZUKI

いわゆる反体制ですよね。そんな中で高倉健だとか鶴田浩二の役柄は、学生運動で大学側や国に対して物申す自分たちと重ね合わせることができたんだと思います。また、撮影所に勢いがあるのかなのかということも、映画監督にかなり影響を及ぼしていると言えます。清順さんは日活の撮影所がピークの時代からだんだん斜陽に

なっていき、つぶれる直前までそこにいました。則文さんは60年代半ばに映画監督として独り立ちをして基本的には70年代の監督なわけですが、その頃すでに撮影所はかつての日本映画黄金期のような機能はしていなくて、もう崩壊していたと言ってもいい。日活の場合はそのあとロマンポルノ路線になっちゃうわけですし。そこで東映がどのようにして生き残ったのかということと、則文さんがどういう作品を撮ったかというところはかなり大きな関わりがあります。東映はとにかく低予算で面白ければいいという娯楽作品を作り、則文さんもまさにそのような姿勢で作品を撮り続ける。そうするとどういう映画に観客は来るのかを考えるようになり、自ずとその観客たちが生きている時代を映画の中に反映させるようになる。端的に言っちゃうと70年代特に前半ですけれども、“エログロナンセンス”という要素がでてくる。則文さんに限らず当時の東映の映画には極めて色濃く反映されていますけれども、彼の作品はかなり典型的にそういう要素が入ってきます。

いまの時代から見たこの2人の監督作品は、どういう意味をもつと思いますか？例えば則文さんはとにかく面白い映画をつくるということだけを考えて撮っていた方で、いまそれから30年なり、もう40年近くがたとうとしているけれども、それがいまなお面白いとすればそれはどういうことなのか。逆に言うとき時代に即して撮られたものは時間の経過に沿って陳腐化し、時代とともに古びてしまう。その時代では新しかったものが、時代が過ぎると当然それは最前線ではなくなるのでたんにつまらなくなってしまうこともある。日本にももちろん海外にもそういう映画監督や作品はあります。それとどう違うのか、ということはいま観ないと分からないという気がします。例えばいまの映画と清順さんや則文さんの作った映画と見比べた時にどう違ってどう同じなのか。ひょっとしたら両方面面白いという人もいるかもしれないし、両方つまらないという人もいるかもしれない。じゃあ、なんでそれらが面白いのかあるいは面白くないのか、なぜそう感じてしまうのか、そこに興味があります。

こちらがあれこれ言わなくても、観れば格好いいと思うし、観れば面白いとわかるはずの映画。

どんな人に今回の作品を観に来てほしいですか？ また関連企画のトークイベントではどんな内容を期待されていますか？

さも知っているかのようにいままで話をしましたが、僕も今回の作品は当時リアルタイムでは観ていないんですよ。なので、僕が言っていることを肌で感じている人たちはたくさんいると思うし、ひょっとしたら僕が言っていることは「いやそうじゃない」という人もたくさんいると思います。そういう人たちにも改めて観に来ていただきたいし、それと同時にもちろん学生にも観てほしい。僕が学生に薦める映画は基本的には彼らにとってはつまらない映画だったり、あるいは彼らが映画として受け容れがたいものが多いわけです。他方で則文さんとか清順さんの作品もあって、それはこちらがあれこれ言わなくても、観

れば格好いいと思うし、観れば面白いとわかるはずの映画だし、そういう映画もありますよ。それらはいずれも映画として観るべきものなのでぜひ観て欲しいと思います。また、トークでは、則文監督からより当時の制作状況が分かるような話を聞きたいですね。現場の話を教えて欲しい。それから鈴木清順さんの作品をどう思うのか、東映の監督として日活アクションや任侠ものに対してどう思っていたのか、他のトーク出演者も含めみなさんの思いも聞いてみたいですね。

堀家敬嗣 HORIKE Yoshitsugu

1966年生まれ。映像作家、映像論(表象文化論)研究。YCAMでの特集上映の企画について作品の選定など監修を務める。現在、山口大学教育学部准教授。

P R E S E N T

山口未公開日本映画特集「鈴木×鈴木」の回数券や関連書籍をプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、1月13日(水)までにハガキ(必着)・FAX・e-mailでご応募ください。

A 山口未公開日本映画特集「鈴木×鈴木」3回数券(2名)

B 「清 / 順 / 映 / 画」(1名)

インタビュー形式で鈴木清順本人が自らの作品について語るほか、フィルムグラフィヤや、シナリオ「颯風狂燭」なども収録。磯田勉、轟夕起夫編、2006年、ワイズ出版。



C 「Hotwax 日本の映画とロックと歌謡曲 vol.8」(特集1 鈴木則文) (1名)

1970年代を中心とした日本の映画とロックと歌謡曲を総合的に紹介するカルチャー誌第8号。特集で鈴木則文監督を取り上げる。2007年、シンコーミュージック・エンタテイメント刊行。



【あて先】〒753-0075 山口市中園町7-7 (財)山口市文化振興財団「any vol.71 特集プレゼント」係FAX: 083-901-2216 e-mail: any@ycfcp.or.jp※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。



◎中世の不思議な世界観を持つ詩をまとめて読めたこと、参考資料もとても楽しかったです。(30代女性 「月光とメルヘン」より)
◎アーティストとゲストの会話が解説になっていてわかりやすかった。普段聞けないような本心とか裏話的な感じがおもしろかった。勇吾さんの声が良かった。(20代男性 Semitral「Tont/T/Time」展トークイベントより)
◎ストリートダンサー達の「生」っぽさが良い。服をぬいだり休憩したり距離が近かったり…。(30代女性 グルーボ・チ・フーア「H3」より)



◎時々来るオーケストラの生演奏は趣味の少ない小生の心からの楽しみです。心洗われました。(70代男性 「東京都交響楽団特別演奏会」より)
◎女の子は最初怖かったけど、楽しそうでした。男の人はかっこよかった。(10歳未満女性 「旅とあいとお姫さま」より)
◎毎回、演奏に入るたびに鳥肌が立ちました。(10代男性 「東京都交響楽団特別演奏会」より)
◎中世直筆のノートや原稿が見られたことが、活字化された書面以上の感情が伝わってきて非常によかった。(特に文也逝去の際の日記など) (20代男性 「哀悼の詩」より)



新しい年がスタート。
年が明けてからも、山口情報芸術センター、
中原中也記念館、山口市民会館の3館では、
感覚を刺激するアート展示や、
遊びながら現代社会を深く掘り下げた企画展、
中原中也の世界を深く掘り下げたコンサートなど、
市民の手作りによるコンサートなど、
色々な企画を準備しています。
さあ、新しいことに参加して、
ここから楽しい一年を始めてみませんか？

楽しい
一年が
始まる。
ここから

A		B
C	D	E

A. [第14回ニューイヤーバンドフェスティバル2010]
B. 参考写真：ワークショップ「見えない力で絵をえがこう」(2004)
C. 三上晴子新作インスタレーション展「Desire of Codes—欲望のコード」
D. 三上晴子+市川創太「gravicells—重力と抵抗」
E. 第7回常設テーマ展示「[山羊の歌]まで」

P I C K U P E V E N T ! W I N T E R 2 0 1 0
ピックアップイベント

山口情報芸術センター (YCAM)

<http://www.ycam.jp/>

三上晴子新作インスタレーション展

「Desire of Codes—欲望のコード」

2010年3月20日(土)～6月6日(日) 10:00～19:00

会場：スタジオA、ホワイエ ほか

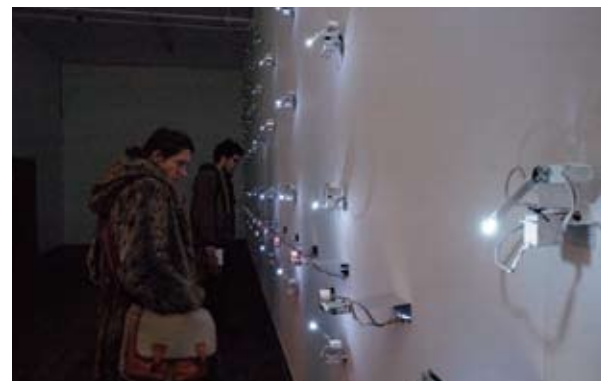
※1月24日(日)～5月9日(日)には、
作品「gravicells—重力と抵抗」改訂バージョンを公開。

情報社会と知覚との 関係を鋭く描く、 三上晴子新作展

キキ・スミスやアン・ハミルトンと肩を並べ
国際的に活躍するアーティスト、三上晴子。
80年代に工場の廃墟や地下施設、研究所
の無菌室などで行った展示で注目を集め、
また近年ではコンピュータサイエンスを駆
使しながら、常に情報社会と身体にフォー
カスした作品を発表し続けています。世界
各地で作品を発表し、高い評価を得ている彼女が、
この春からYCAMでアジア初の個展を開催。本展で
は、「監視社会における欲望」をテーマに、山口で滞
在しながら制作した新作を世界初公開します。
また、2004年のYCAMでの発表以来、世界7カ国
10都市で公開され、各地で大きな話題を呼んだ
「gravicells—重力と抵抗」(市川創太との共同作
品)が、改訂新版として進化を遂げ再登場。楽しみ
ながら新たな感覚を発見することができる独創的な
アート作品の数々をどうぞご覧ください。

料金 ■ 無料

わたしはココに注目する！
観ている私たちの行動が作品に変化を与えるので、どんな
動きをすればどう変化するのか、じっくり観察してみてください。
3月20日～5月9日のご来場がオススメ。本展の全作品
が鑑賞できますよ！



アーティスト三上晴子さんからのメッセージ



今回スタジオAでは、スウェーデン、ドイツ、
イギリス、フランスで展示された「欲望のコード」というインタラクティブ・インスタレーションをもとに、空間を拡張して展開します。
この作品では、人の動きを昆虫のように追う
構造体に取り付けられた小型カメラによっ
て「見ること」と「見られる」ことを同時に体
験しながら「リアルタイムという現在の時間」をどう知覚してい
るのかを表現しています。また、スタジオBではYCAMで発表し
てから世界7カ国を巡回してきた市川創太さんとのコラボ作品
「gravicells—重力と抵抗」も新しいバージョンで発表。どうぞ
お楽しみください。

三上晴子 Mikami Seiko

アーティスト。多摩美術大学情報芸術コース教授。1984年から情報社会
と身体をテーマとした大規模な作品を手掛け、92年から2000年まで
ニューヨークを拠点に主に欧米で作品を発表。95年からは知覚によるイン
ターフェイスを中心としたインタラクティブ作品を発表。海外巡回多数。

検索ワークショップ「Search'n Search (サーチン・サーチ)」

2010年2月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)

各日14:00～17:00 (1日完結)

カードゲームで遊びながら、メディア社会の仕組みに迫る！



左:石橋 素 右:真鍋大度 photo: Alvaro Cassinelli

ウェブサイトをよく
みかける「検索」シ
ステム。その仕組
みや役割は、私た
ちの日常生活とま
すます密接にかかわってきています。このワーク
ショップでは、インターネットの「検索」技術を、解り

やすい遊びに置き換えながら学ぶことができます。
目には見えないメディアの仕組みを知ることで、社
会とメディアとのつながりをもっと身近に、創造的
に発見してみましよう。

目には見えないメディアの仕組みを知ることで、社
会とメディアとのつながりをもっと身近に、創造的
に発見してみましよう。

わたしはココに注目する！
情報社会において「検索」というのは今後もさらに重要な技
術になってきます。それがどのような意味を持つのか、その
ことをみんなで一緒に考えてみましょう。

料金 ■ 500円(要申込) ※申込方法等、詳細についてはお問い合わせください。

[講師] 石橋 素、真鍋大度 [対象] 小学校4年生以上(各回15名)

観る
聴く
楽しむ
の！

◎ビュアな心が心に沁みて、痛みを感じました。ダンサーの動きも軽やかでよかったです。(40代女性 「旅とあいつとお姫さま」より)
◎集中してしまい息の詰まる時間でした！(良いイミで)シブシブな演出ながら、光や空間の使い方にも静と動のメリハリや変化があり、
ダンサーの息使いや動きによる風なども感じられて迫力がすごかったです。(20代女性 グルーボ・チ・ファア[H3]より)
◎辻田暁さんの演技がとてすばらしく、「ハクリョク」がありました。ストーリーの展開も想像と違って、素晴らしい内容でした。(20代女性 「旅とあいつとお姫さま」より)

解体

ビットシングス (BIT THINGS)



図書館入口横のスペース「ビットシン
グス」。ここには統一感のある32cm角
のサイコロのようなビットキューブの
椅子や机、照明、スピーカーが置かれ、
展示やワークショップ、レクチャー、ラ
イブ会場など、様々な表情を変えてき
ました。現在は、YCAMがこれから行
うアート展やダンス、演劇、映画など
の情報やこれまでの活動を、映像など
で知ることができるコーナーとして
活用されています。また、CDや書籍な
どYCAM関連グッズが並ぶショップ
コーナーもあり、商品の購入も可能。
昨年には、スタッフお手製の大きな木
の机と椅子が加わり、より過ごしやす
い空間になりました。この冬からは今
後予定している特集映画や新作アート
展についてご紹介します。まずはビッ
トシングスでYCAMを知っちゃおう！

旅するYCAM

PARK CITY



2009年、YCAMでの滞在制作で誕
生した舞台作品「PARK CITY」。日本
を代表する劇作家、演出家の一人で
ある松田正隆と、若手写真家の笹岡
啓子とが共同で作品を制作しました。
8月に山口で初演を迎え、多くの反響
を呼んだ本作品が、10月には場所を
変え、滋賀県のびわ湖ホールにて上
演。YCAMでは3階にさらに席を追加
し、かなり高所から舞台を見下ろすよ
うな形の上演となりましたが、びわ湖
ホールの場合は通常オペラホールと
して使用している広い舞台の上に客席
が作られました。全公演がほぼ満席
だったこの作品、中には山口ですで
に観て2度目というお客様も。YCAM
とは違う形状なので、同じ作品でも
また違ったふう感じたのではないでし
ょうか。終演後は、観客同士が熱心
に感想を交換したり、演出家に質問
をする場面もみかけられ、盛況な様子
がうかがえました。

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

企画展Ⅲ

「収蔵資料展」

開催中～2010年4月18日(日)

収蔵資料にみる中也の新たな世界

中原中也記念館は、1994(平成6)年の開館以来、関係資料の収集・保存に努めてきました。この企画展では、普段の展示ではあまりお目にかけることのできない貴重な資料をいくつか公開します。

中也と同時代の詩人である神保光太郎が編み、手書きで作った中也の詩集「帰郷」と「曇天」、現在その所在が2カ所しか確認されていない同人誌「白痴群」第6号、中也が小学生の頃に出版されていた少年向けの雑誌、平成20年にランボー記念館から寄贈された品やその当時の交流の様子などをご紹介します。また、中也の小学生の頃の答案用紙や中也詩集の豆本など、普段は収蔵庫の中で大切に保管されている資料をご覧いただけます。

何度も来館された方にも、初めての方にとっても、より深く中也の世界を知ることができるこの機会をお見逃しなく。

入館料 一般 310円(262円)／大学生 210円(157円)／小中高校生 150円(105円)
※70才以上は無料 ※()内は20人以上団体料金 ※あわせて常設テーマ展示もご覧いただけます。

第7回常設テーマ展示

「『山羊の歌』まで」

2010年2月10日(水)～2011年2月13日(日)

詩集『山羊の歌』ができるまでをたどる



中原中也は詩人としての生涯のなかで、『山羊の歌』(1934(昭和9)年)、『在りし日の歌』(1938(昭和13)年)という2冊の詩集を残しました。そのうち、中也が自らの手で出版したのは『山羊の歌』1冊だけです。

第一詩集『山羊の歌』が世に出たのは、中也が27歳のときでした。限定200部、当時でも珍しい大型の豪華本です。「サーカス」や「汚れつちまつた悲しみに……」など代表的な詩篇を

含む、計44篇が収められています。中也は初の詩集刊行に向けて、並々ならぬこだわりをもって編集にあたりますが、その想いとは裏腹に、刊行までの道のりは順風満帆とはいきませんでした。今回の展示では、生前唯一の詩集『山羊の歌』が刊行にいたるまでの道のりを関係資料とともにご紹介いたします。

／わたしはココに注目する！
無名の詩人が、一冊の詩集を出すということ。こんなふうに、あんなふうに…と夢はどんどんふくらみますが、現実はその甘くはありません。中也の奔走ぶりをご覧ください。

入館料 一般 310円(262円)／大学生 210円(157円)／小中高校生 150円(105円)
※70才以上は無料 ※()内は20人以上団体料金 ※あわせて企画展もご覧いただけます。

／わたしはココに注目する！
中也と神保光太郎との関わりはあまり取り上げられることがありませんが、手書きの詩集からは、神保の、中也とその詩に対する深い思いが伝わってきます。



雑誌「少年世界」

／わたしはココに注目する！
中也と神保光太郎との関わりはあまり取り上げられることがありませんが、手書きの詩集からは、神保の、中也とその詩に対する深い思いが伝わってきます。

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

「第14回ニューイヤーバンドフェスティバル2010」

2010年1月23日(土) 10:30開演

会場:大ホール

新春を彩るブラスの祭典

毎年恒例のニューイヤーバンドフェスティバルを今年も開催。いつも新春のこの時期に、山口市内の小学校、中学校、高校、大学や、一般の音楽団体が一堂に山口市民会館に集い、日頃の練習の成果を発表します。

小学生から大人まで、幅広い年齢の団体が出場するこのフェスティバルの見どころは、なんといってもクラシックやポップス、ジャズなどさまざまなジャンルの吹奏楽の音楽が楽しめること。そして、音に向き合う子どもの真剣なまなざしや、音楽をとおして培った団結力や連帯感など、そこから見えてくる姿は、私たちに感動を与えてくれます。癒し、感動、明日への力…たくさんのパワーをもらいに、そして市民による音楽をじっくり味わいに、ぜひご来場ください。

料金 無料

[出演]山口市内の小・中・高等学校、山口県立大学吹奏楽団、山口地区一般合同吹奏楽団 ほか

[問い合わせ]小郡中学校(小笠原) TEL.083-973-0508



／わたしはココに注目する！
元氣な曲からしっとり聴かせる曲まで、雰囲気の違いが数多く用意されているので最後まで楽しめます。新春の清々しいこの季節に、音楽をどうぞ心ゆくまで堪能ください。

ドリス&オレガ collection vol.5

演劇公演「ナンシー」

2010年5月28日(金) 19:00開演

会場:山口市民会館 大ホール

2007年の演劇公演「コースター」で、山口市民会館の観客を爆笑と感動の渦に巻き込んだ西村雅彦率いる“ドリス&オレガ”。彼らが新作「ナンシー」を携え、再び山口にやってきました。出演は西村雅彦のほか、舞台初挑戦となる飯島直子、テレビドラマでも活躍中の安田顕、若手舞台女優として注目を集める岩佐真悠子など、魅力あふれる顔ぶれがそろいます。

とある銀行で巻き起こった強盗事件。警察・犯人・人質…、様々な人々の思いが激しく交錯する現場。驚愕のラストがあなたの心を揺さぶる最高のハイパーミステリーコメディをお楽しみに!

チケット情報 any会員先行予約 3月6日(土)～
一般発売 3月20日(土)～
料金 全席指定 一般 S席 5,000/A席 4,000円
※any会員は各500円引



西村雅彦



飯島直子

西村雅彦さんからのメッセージ
皆さんお元気でお過ごしですか? 2007年「コースター」以来の山口公演になります。その節は、大変暖かい声援をいただき本当に有難うございました。忘れられない山口です。「ナンシー」は摩訶不思議なタイトルですが、今回も皆様に明日への希望と勇気をお届けします。飯島直子さん、安田顕くんをはじめ、実力あるキャストの方と共に、夢のような時間をお過ごしください。お待ちしております。

■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

検定 中也



鎌倉の中也宅

Ｑ 1937(昭和12)年2月、中也は東京から鎌倉へ引っ越します。2歳で亡くなった愛児・文也の思い出の残る家にいるのが辛かったためです。友人への手紙に「ほとんどもう肉感に乏しい関東の空の下にはくたびれました」と書き、7月から8月にかけては何人もの友人に、山口へ帰郷するのだと書き送っています。「関東よりは関西、関西よりは中国の方が好きである小生」という中也。どう理由で帰郷したかったと書いているでしょう。

- 想像力をかきたてられるし、幼い頃の友達が迎えてくれるから。
- 粘着力が感じられるし、近くへの旅行ができるから。
- 回復力を得られるし、故郷の食べ物美味しいから。

答えは14ページ

公開講演 「死と哀悼」

2010年1月30日(土)
15:00～17:00
会場:ホテルニュータナカ(湯田温泉)

中原中也記念館では、年に1～2回「公開講演」を開催。今回は2月7日まで開催の常設テーマ展示でもある「哀悼の詩」をテーマに講演を行います。講師は、実践女子大学の栗原敦先生。先生は近代・現代文学研究、とくに宮沢賢治研究で知られ、『宮沢賢治一透明な軌道の上から』(新宿書房)において第1回やまなし文学賞(研究・評論部門)を受賞しています。中也は10代の頃から賢治の詩を愛読し、多大な影響を受けました。中也が身近な人々の死を悼んでつくった詩が、本講演会でどのように読み解かれていくのか、ご期待ください。

[料金]無料

観覧した
あなたに
の！

◎お客まかせの部分が大きいし、何があるのかよくわからないので最初は難しいのかなとも思いましたが、たしかに終わってからステイする場はないので良いアイデアだと思います。(グルーポ・デ・フォー[H3]アフターカフェより)
◎意味や意図がわからなくてもおもしろければいい、というような話が聞けて良かった。玄人向けで意外と難しかったが、作った人の率直な感想がおもしろかった。(30代女性 Semitral「Tont/fTime」展トークイベントより)

any通信

雪が降るといつもわくわく、
寒さを忘れて
はしゃいでしまいます。



中也の詩の世界を絵本にしました。



去る7～9月に行われた中原中也記念館の特別企画展「月光とメルヘン」の関連イベントとして、2回にわたって絵本づくりのワークショップが開催されました。講師は手づくり絵本の会代表の山口智子先生。中也の詩の中でも今回展示で取り上げた「月夜の浜辺」と「一つのメルヘン」の、どちらか1篇を絵本にしました。展示室で詩の解説を受けた後、絵本づくりスタート! 開始早々テキパキと作

業する人、じっくり紙と向き合い、おもむろに手を動かし始める人…、思い思いの取り組み方で絵本をつくりあげていきます。作業中、先生からの確かなアドバイスが入り、作品の完成度がグンとアップ。中也の詩の世界がギュッとつまった個性的な絵本がたくさん生まれました。

**セミトラ展、
まだ観ていない人は急いで!**

webデザインや映像広告、ディスプレイなど主にデザインの分野で活躍するクリエイター集団「Semitransparent Design(セミトランスペアレントデザイン)」。彼らが現在、山口情報芸術センターの館内や屋外を使って、時間によってフォント(文字書体)が変容していくユニークなアイデアの展覧会「tFont/fTime(ティーフォント/エフタ

イム)」を公開しています。直接作品に触って壁に映し出されたフォントに変化を加えることができる作品のほかにも、「T」と「F」の巨大サインが館内や外の中央公園に設置されるなどYCAMをにぎやかに彩っています。また、展示作品をネットワーク上(<http://www.semitraexhibition.com/>)で加工したり、創作することができ、その様子を映像中継で観ることも可能。会期は1月10日まで。まだ観ていない人はいますぐYCAMへ!



ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

佐藤俊介 (ヴァイオリニスト)

昨年の夏、ヨーロッパを拠点に活動中のヴァイオリニストの佐藤俊介さんを山口にお招きし、山口情報芸術センターのホワイエでトーク&ミニコンサートを、また山口市民会館では東京都交響楽団との共演によるコンサートを行いました。短い期間に2度も山口を訪れ、その魅力あふれる人柄と繊細かつ大胆な演奏で会場の人々を大いに魅了した佐藤さん。山口の印象はいかがでしたか?

**音楽の微妙な表情や変化を
熱心に聴き入っていただきました。**



©ユニバーサル クラシック&ジャズ

去る8月23日、山口情報芸術センターでトークを挟んだミニコンサートを行いました。会場のホワイエへ到着してびっくり! 用意されていた椅子は全てお客様で埋まっていただけでなく、階段も見える限り上まで人。地面に座っている子供たち、席がなく立ったまま聴いてくださっているご両親…300人近くの皆様が集まっていたいただいたように思います。

そして皆様の笑顔…入った時の驚きが一瞬にして、「来てくださって本当にありがとうございます!」という気持ちになったのを覚えています。演奏中、一音一音に含まれる音楽の微妙な表情や変化を、皆さんが熱心に聴き入ってくださっていることを感じ、とても印象に残りました。そんな皆様の暖かい雰囲気胸に残し、9月に、山口市民会館で東京都交響楽団とチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を演奏しました。自由と感謝…良い演奏をするのに一番必要なこの2つを感じながら弾かせていただきました。山口の皆様、どうもありがとうございました!

**「東京都交響楽団特別演奏会」プレイベント
ヴァイオリニスト佐藤俊介による
トーク&ミニコンサート**

**2009年8月23日
会場:山口情報芸術センター ホワイエ**



島根県益田市の文化施設グラントワと連携し、東京都交響楽団とソリストに佐藤俊介を迎えコンサートを行った。本公演の前には2回にわたってプレイベントを実施。都響金管メンバーによるミニコンサートに引き続き第2弾として、佐藤俊介によるヴァイオリンのミニコンサートをトーク付で開催。300人近くの来場者があり、小さなお子様からお年寄りまで幅広い年齢の方々が、音楽を心から楽しんでた。

佐藤俊介 SATO Shunsuke

ヴァイオリニスト。1984年東京都生まれ。若干10歳でフィデルフィア管弦楽団の学生コンクールで優勝。N響を含む日本の主要オーケストラに加え、欧米の名門オーケストラと共演。ヨーロッパ、アメリカ、日本などでリサイタル活動にも積極的に取り組んでいる。2004年、第15回出光音楽賞受賞。現在、古楽の勉強のためフランスからドイツに移住。



お先に
試写し
しました

「アンナと過ごした4日間」

(2008年/ポーランド・フランス/94分/カラー)
[監督] イエジー・スコリモフスキ [出演] アルトゥール・ステランコ、キンガ・ブレイス

話題の映画「アンナと過ごした4日間」が、遂にYCAMに登場する。既に雑誌や新聞、ネットなどで多く取り上げられているので、目にした方も多いのではないだろうか。その概要から連想するに「ストーカーの映画なのか?」という懸念を持ちつつも、その類いの映画か否かなど全く問題にするまでもないくらいに物語にぐっと引きこまれていく。94分という映画としては決して長くもなく、短くもない、ごく平均的な上映時間の中で、主人公の中年男の姿をとおして物語は展開する。時に滑稽に哀れにも見える男の姿…。全てが純愛ゆえに常識的ではない彼の愛情表現がどのような結末を迎えるのかと気にしている間に、彼の過去も同時進行で回想されていく。人がどう見ようと

彼にとっては至福の時間が過ぎ、あっけなくラストを迎える。どこまでも美しい景色、暗闇と明るい場所の陰影、これらの何度目にする息を呑むような美しいシーンの連鎖、そしてわずかな緊張感。映画を観る喜びと感嘆を感じた瞬間だった。

松富淑香 (YCAM シネマ担当)

**2010年3月5日(金) 13:30～/19:00～
6日(土) 13:30～/16:00～
7日(日) 13:30～/16:00～
会場:山口情報芸術センター スタジオC**
[料金] 一般 1,200円 any会員/学生 1,000円
ジュニア(18歳未満)/シニア(65歳以上)
障がい者/介護の同行者1名 800円

「アンナと過ごした4日間」作品紹介

舞台はポーランドの田舎町。この町に住むレオンは、ある日、偶然に強姦事件を目撃してしまい、そのまま犯人にされてしまう。出所後、彼はその事件の被害者アンナに心奪われるまま、驚くべき行動を重ねていく…。ポーランドの巨匠イエジー・スコリモフスキが17年ぶりに描く愛の物語。



My Favorite

市民会館の中庭に雄々しく立つ銅像のライオン君は、密かに市民会館を見守るシンボルのキャラクター。先日、小さな女の子を連れた親子が「うう、噛まれた～! 手が抜けない!」なんて言いながらライオン君で「真実の口」ごっこをしていました(もちろん本当には噛んだりしません)。見つけにくい場所にありますが、探してみてくださいね。

林光院寿江 (山口市民会館)



いただきます



シフォンケーキセット

500円(税込)～
※写真はコーヒー付

シンプルで飾らない味が近所でも評判

YCAMのすぐ近くにあるシフォンケーキ屋さん「カトルセゾン」。店内にはカフェスペースもあり、その場ですぐにシフォンケーキを食べることができます。さて、気になるそのお味は…。むむむ、表面は香ばしい匂いを放ちつつもとってもふわふわ。それでもって中はしっとり。口の中でふわっとほどけて、ほどよい甘みがじんわりと広がる。これは食べた人にしかわからないちょっと驚きの食感です。しかもすごく軽いからペロリと食べちゃえます。「甘過ぎないのがちょうどいい!」と近所のおばあちゃんやおじさんたちも買いに来るのだとか。味はプレーンのほかに抹茶やチョコレートもあり、サイズも選べます。YCAMに来られたときのお土産としてぜひ! (any会員限定の特典あり)

「ラ・レーヌ・デ・カトルセゾン」
山口市中央 5-15-32 TEL.083-932-8822
営業時間:10:00～19:00 月曜休み(祝日は除く)

GOOD GOODS



展覧会ブックレット

「gravicells—重力と抵抗」

読んで、もっとよく知ろう!

2004年にYCAMで発表されたアート作品「gravicells—重力と抵抗」。ここでは、移動する観客の体重を特殊なセンサーが察知し、床面に映し出された等高線が歪んだりすることで、普段意識していない身体への重力を感じることが出来ます。公開当時は等高線を波に見立てて作品の上で泳ぐ子ども達の姿も! この時制作されたブックレットは、作者であるアーティスト三上晴子と建築家・市川創太が自らテキストを綴り、作品のコンセプトなどを解説。写真も多く掲載され、どのように作品が変化していくのかがよく分かる内容になっています。1月から「gravicells」の改訂版が再びYCAMに登場。このブックレットを読めば作品をより深く味わうことができますよ。

価格:500円(税込) A5版/12P/カラー/日英両版
テキスト:三上晴子+市川創太

1 January

2 February

3 March

掲載内容は2009年12月1日現在のものです。変更場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター (YCAM) http://www.ycam.jp/ ※年末年始のお休み12／29～1／3	アート	開催中	10			24										～5／9
		 Semitra インスタレーション展「tFont／fTime」(本誌P12参照)				 三上晴子+市川創太 「gravicells—重力と抵抗」[改訂版](本誌P9参照)										
		開催中		31											20	～6／6
		 sound tectonics #8 渋谷慶一郎+evala サウンドインスタレーション「for maria installation version」													 三上晴子新作インスタレーション展 「Desire of Codes—欲望のコード」(本誌P9参照)	
シネマ																
その他																
山口市民会館 http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ ※年末年始のお休み12／29～1／3																
中原中也記念館 http://www.chuyakan.jp/ ※年末年始のお休み12／28～1／4		開催中														～4／18
		 企画展Ⅲ「収蔵資料展」(本誌P10参照)														
		開催中														～2011／2／13
		 第6回常設テーマ展示「哀悼の詩—愛するものが死んだ時には」														

【マーク説明】 体験する  参加する  聴く  観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ(要事前登録・24時間受付)

http://www.ycfcp.or.jp/

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話

チケットインフォメーション(10:00～19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

TEL. 083-920-6111

窓口

チケットインフォメーション(10:00～19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口

※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

【対象】0才(6ヶ月)以上

【料金】1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

【時間】開演の30分前から終演後30分まで

【申込方法】公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

【対象】1才以上

【料金】1人につき30分150円

【時間】13:00～17:00 1回2時間まで(山口市立中央図書館休館日を除く)

【申込方法】当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

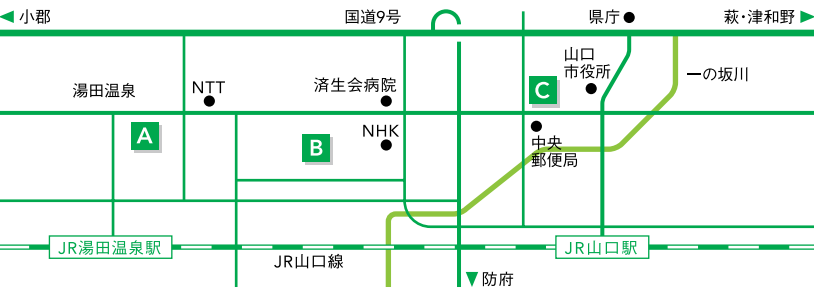
※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

【年会費】1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

【会員期間】入会日から翌年の入会月末まで

【会員特典】チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



財団法人 山口市文化振興財団 Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion 〒753-0075 山口市中国町7-7(山口情報芸術センター内) TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216 http://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

イメージチェンジをはかり、久々にふんわりパーマをかけました。が、毎朝、髪の毛があっちこっちに向き、爆発寸前。言うことをきいてくれませんが、でも気持ちだけはキャンディキャンディのつもりです。(年がばれるかな)。[M.M]

編集時期は何度か風邪をひき、仕事でマスコ姿で原稿と格闘することがありました。昔は風邪をひいたにひかなかったのに…。インフルエンザが流行っていますが、みなさまご自愛ください。[M.D]

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21 TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431 [開館時間] 9:00～18:00(入館は17:30まで) [5～10月] 9:00～17:00(入館は16:30まで) [11～4月] [休館日] 月曜(祝祭日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始 http://www.chuyakan.jp/ chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中国町7-7 TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216 [開館時間] 10:00～20:00(夜間イベントのある日は22:00まで) [休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 http://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1 TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488 [開館時間] 8:30～17:15 [休館日] 年末年始 http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ shiminkk@c-able.ne.jp

検定 答え 中

A.  粘着力が感じられるし、近くへの旅行ができるから。
(「ほんのつまらぬ道の曲り角にも、少年時代がこびりついてゐます」「気がついてみれば僕は旅情の我鬼です」とも書いています。)

観る 聴く 読む

●情報交換にもなるのでいいと思う。(20代女性 グルーボ・チ・フーア「H3」アフターカフェより)
●ずっと食い入る様に見続けました。時間がたつのを忘れてました。(30代女性 「旅とあいつとお姫さま」より)
●佐藤さんのミニコンサートを聴いていたおかげでとてもチャイコフスキーの演奏に興味をもって聴けました。素晴らしいテクニックです。小泉さんは学生の頃から憧れていました。(50代女性 「東京都交響楽団特別演奏会」より)

GUZUKI X GUZUKI

「鈴木X鈴木」



財団 法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

